

死亡症例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

平成21年6月16日安全対策調査会
資料9-1

平成21年6月3日タミフル臨床WG
資料7-1

No.	識別番号	性別	年齢	年齢	日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回の公表 No.	備考
1	B-06025952	女性	1	1歳	18 mg	エチルコハク酸エリスロマイシン d-マレイン酸クロルフェニラミン 塩酸アンブロキシール ヒベンズ酸チベジジン ツロブテロール	心肺停止	死亡	18:00インフルエンザ陽性。リン酸オセルタミビル18mg1回内服。翌3:00、「呼吸苦しそう」との連絡あった後、呼吸停止となり来院。挿管し、人工呼吸するも回復せず。救急車にて他院に搬送するも死亡が確認された。	死亡-1	
2	B02-13903 (B-07018870)	男性	2	2歳	25 mg	塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チベジジン 塩酸プロムヘキシン	突然死 心停止	死亡 死亡	水痘と診断された約3週間後、インフルエンザA型と診断。軽度の仮性クループが認められたが、陥没呼吸は認められなかったため、入院せず帰宅。帰宅後、リン酸オセルタミビル25mgを服用(併用薬は左記のとおり)。その日の夕方、呼吸状態が悪化し、救急で搬送される途中で心肺停止。心肺蘇生術が行われたが、死亡。主治医によると、インフルエンザによる心筋炎等が疑われるとされた。	死亡-2	
3	B-04026215	男性	2	2歳	36mg	フェノバルビタール	心肺停止	死亡	水頭症、アーノルド・キアリ奇形、及びてんかん等の既往歴あり。脊髄髄膜瘤根治術、脳脊髄液シャント術等を施行。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル18mg/日又は36mg/日の服用を開始(併用薬は左記のとおり)。服用2日目、解熱し、嘔吐も消失したが、傾眠傾向が発現。3日目及び4日目は両日朝のみの服用。4日目の夜以降、心肺停止、蘇生を数回繰り返す。急性心不全、肺水腫、脳浮腫の所見あり。その約2ヵ月半後、敗血症及び心肺停止で死亡。	死亡-3	
4	B-05024866	男性	3	3歳	60mg	塩酸ツロブテロール 塩酸アンブロキシール 鎮咳配合剤 アセトアミノフェン 硫酸サルブタモール エビネフリン	心肺停止	死亡	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル60mg/日を服用(併用薬は左記のとおり)。次の日の朝、呼吸停止の状態で見送られ、病院に搬送されたが死亡。	死亡-4	
5	B-07000230	男性	3	3歳	不明		死亡	死亡	インフルエンザに対し、リン酸オセルタミビル投与開始。夕方、本剤服用。その後、就寝。30分後、トイレ。1時間半後、うつ伏せで寝ていた。ぐったりしていて反応なし。病院に救急搬送されるも死亡。	死亡-5	
6	B-07000268	男性	3	3歳	27.5mg	アミノフィリン	突然死 呼吸停止	死亡 死亡	受診時39.6度。インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用1時間後、起き再度入眠。服用2時間後、左側臥位で呼吸停止状態に気付かれ、救急搬送。服用3時間後、死亡。司法解剖で高度肺水腫(肺炎なし)、脳浮腫高度(脳ヘルニアなし)、microgliosis、星状突起断裂にて「インフルエンザ脳症と矛盾しない」とされた。	死亡-6	
7	B-04026881	男性	4	4歳	64.2mg	塩酸ツロブテロール ヒベンズ酸チベジジン 塩酸シプロヘプタジン アセトアミノフェン	胸部不快感 死亡	死亡 死亡	インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル64.2mg/日の服用を開始(併用薬は左記のとおり)。服用3日目の夕方、胸の苦しさを訴えたが、心電図、心エコー等の結果、異常は認められず、帰宅。帰宅後アセトアミノフェンを服用し、その夜、本患者は倒れ、救急車で搬送。救急車に乗せられた時点で心静止状態であった。その後日付不明時に心肺停止に続いて脳死状態になり、搬送から約2ヵ月後、低酸素脳症で死亡。	死亡-7	

死亡症例の概要(年齢順)

(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	個別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	死因	死亡	経過の要約	前回公表 No.	備考
8	B-05000320	女性	4歳	60 mg	アセトアミノフェン 塩酸シプロヘプタジン 塩酸アンプロキシソール	突然死 心肺停止	死亡 死亡	喘息様気管支炎の既往あり。発熱から3日後に受診し、インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル60mg/日を処方(併用薬は左記のとおり)。その夜、本剤服用後、嘔吐が発現。服用2日目の朝、四肢末梢の顕著な冷感と疼痛を訴え、その後突然、心肺停止となり、死亡。主治医によると、心筋炎が疑われるとされた。	死亡-8	
9	B02-1635	女性	5歳	75mg	セフジニル クロモグリク酸ナトリウム フマル酸ケチフェン	窒息 嘔吐	死亡	診断前から喘息に対してクロモグリク酸ナトリウム、フマル酸ケチフェン投与開始。インフルエンザウイルス感染症に対してリン酸オセルタミビルおよびセフジニル処方。翌日痰、嘔吐等による窒息発現。患者死亡(死因、死亡日時不明)。担当医によると本剤を服用しているかどうかは不明。	死亡-9	
10	B-05020031	男性	6歳	37.5mg	アモキシシリン 塩酸ソロブテロール ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンプロキシソール アセトアミノフェン 耐性乳酸菌製剤(3) ドンペリドン 塩酸ロベラミド ラクタミン	突然死 胃腸出血 心肺停止	死亡 不明 死亡	ダウン症候群の患者。インフルエンザA型と診断され、夕方にリン酸オセルタミビル37.5mgを服用。翌日昼すぎ、咳嗽あるため、急患センターにてエビネフリンを吸入。夕方、呼吸停止し、救急で搬送。消化管出血が発現。治療の効果なく、死亡。	死亡-10	
11	B-03011242	男性	9歳	75mg	塩化レボカルニチン メトニダゾール 耐性乳酸菌製剤 ガラクトシダーゼ 炭酸水素ナトリウム ブドウ糖 塩化ナトリウム カルボシステイン ファモチジン エボエチンβ(遺伝子組換え)	急性肺炎	死亡	出生時よりメチルマロン酸血症にてしばしば重篤なアシドーシスに陥ることがあり、さらに精神発達遅滞及び脳性麻痺の既往あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル75mg/日(5日分)の処方を受けた(併用薬は左記のとおり)。4日目に嘔吐頻回となり、入院。5日目明け方より、多呼吸、意識レベル低下あり、急性肺炎を発現。その日の午後、突然の呼吸停止、心停止となり、次の日の早朝、死亡。剖検の結果、急性肺炎を確認。なお、主治医によると、リン酸オセルタミビルをどの程度内服していたかは不明。	死亡-11	
12	B-06007798	男性	12歳	150 mg	アセトアミノフェン	死亡 損傷	死亡 死亡	発熱があったため、家族に処方されていたリン酸オセルタミビルを75 mg/日服用。その後、熱が下がらないことから、左記併用薬を服用。同日夕方、自宅のある高層住宅の駐車場で心肺停止状態で発見され、病院に搬送されたが死亡。 【解剖所見あり】 【異常な行動が記録されている事例 No.191 に同じ】	死亡-12 異常-165	
13	B-05002487	男性	14歳	75mg		意識変容状態	死亡	発熱、咽頭痛、関節痛にて受診。A型インフルエンザと診断。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。本剤服用2時間後、9階自宅より転落。出血性ショックにより死亡。主治医によると転落したときの状況は誰も見ていないため意識障害、精神障害があったかは不明。 【異常な行動が記録されている事例 No.237 に同じ】	死亡-13 異常-207	

死亡症例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年	年齢	1日用量	併用薬	副作用	死因	経過の概要	前回の事例 No.	備考
14	B-06024434	女性	14	14歳	75 mg	イブプロフェン 非ピリジン系感冒剤(4) アズレンスルホン酸ナトリウム・L-レ グルタミン	転倒	死亡	発熱(38.2℃)、咳、鼻水、喉の痛みあり。インフルエンザBと診断され、リン酸オ セルタミビルを服用。服用から2時間後自宅マンションから転落し、心肺停止状 態。病院に搬送後に死亡確認。 [異常な行動が記録されている事例 No. 246に同じ]	死亡-14 異常-216	
15	B-06024795	男性	14	14歳	150mg	アセトアミノフェン	異常行動 転倒	死亡 死亡	インフルエンザA型にて本剤を服用するが、異常行動発現なし。約1年後、発熱 (38.9℃)、咽頭痛、インフルエンザB型陽性で本剤を処方。 朝、夕服用し、その夜に自宅マンションから飛び降り死亡。 [異常な行動が記録されている事例 No.247 に同じ]	死亡-15 異常-217	
16	B-04008399	男性	17	17歳	75mg	塩酸アマンタジン アモキシシリン セラベプターゼ 塩酸アンブロキシール 耐性乳酸菌製剤(3) ソファルコン	異常行動	死亡	塩酸アマンタジン他を処方。翌日、インフルエンザA型と診断、塩酸アマンタジン を中止し、リン酸オセルタミビル75mgを処方(併用薬は継続)。昼食後内服し、約 2時間後、突然素足で飛び出し、1m以上のコンクリート塀を跳び越え線路を横断 し、ガードレールも越えトラックにはねられた。胸部外傷によるショック死。主治医 によると、平成14年2月に本剤を5日間投与しているが異常なかったとのこと。 [異常な行動が記録されている事例 No.288 に同じ]	死亡-16 異常-256	
17	B-04026316	女性	20	20歳	150 mg		突然死 心肺停止	死亡 死亡	アトピー性皮膚炎の患者。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を処方。次の日の朝、呼吸停止の状態で見られ、救急で搬送。CT 検査では、低酸素脳症で浮腫が著しく、皮髄境界はみられる状態ではなかつ た。その次の日、心肺停止で死亡。	死亡-17	
18	B-07000103	女性	20	20歳	150 mg	鎮咳配合剤(1) カルボシステイン 塩酸アンブロキシール ロキソプロフェンナトリウム テオフィリン ツロブテロール フマル酸クレマスチン マレイン酸イルソグラジン ファモチジン ピオデアスターゼ2000配合剤(19) 塩酸シプロフロキサシン 塩酸テトラサイクリン スルピリン ケトプロフェン	心肺停止	死亡	咳、咽頭痛、鼻汁、38.2℃の発熱あり。インフルエンザB型と診断し、リン酸オセ ルタミビル処方。同日夜から嘔気が発現。服用2日目、立ちくらみのような症状あ り、食べられず、薬も飲めず。服用3日目、血圧:110/68、体温:38.0℃。点滴治 療を行い症状軽快。食事摂れた。数時間後、嘔気軽快。 服用4日目も同様に、嘔吐発現し、点滴にて軽快。服用5日目、朝、救急車に搬 送中に心肺停止。蘇生行ってもなくなったとのこと。	死亡-18	
19	B-07000195	女性	20	20歳	75 mg		急性心不全 急性呼吸不全	死亡 死亡	発熱・咽頭痛・頭痛を認める。その3日目の朝、39℃の発熱。同日夜、インフルエ ンザB型と診断され、リン酸オセルタミビルを投与される。次の日、本剤内服する が、その後腹痛出現し、飲めなかった(1カプセル又は2カプセル服用後、中 止)。投与開始3日目、体温35.9℃、腹部所見は心窩部に圧痛認めるものの腹 壁soft。Gル音正常。食欲なし。投与開始4日目、救急搬送される。腹部所見は 前日と同様。月経痛で腰痛もありとの訴えあり。 投与開始5日目、午前3時頃、四肢末梢にチアノーゼがあり。気管内挿管。人工 呼吸、心マッサージ等を行うが、午前6時半頃、死亡確認。	死亡-19	

死亡症例の概要(年齢順)

(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年	年齢	1日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回の公表 No.	備考
20	B-06024532	男性	25	25歳	150mg	アジスロマイシン水和物 塩酸セフカペンピボキシル 非ピリン系感冒剤(4) ロキソプロフェンナトリウム	下痢 心筋虚血	死亡 死亡	高熱、倦怠感、関節痛に対し、リン酸オセルタミビルが処方され5日間服用。服用終了時に下痢の訴え、発熱(37.8℃)あり。その2日後に死亡。検死により虚血性心疾患の疑いによる死亡とされた。	死亡-20	
21	B-04026768	男性	26	26歳	不明		死亡	死亡	インフルエンザ簡易キットではマイナスであったが、インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビルを服用し、その日のうちに死亡。剖検の結果、脊髄の浮腫、及び間質性肺炎像(びまん性)が確認。担当医の協力が得られず、その詳細は不明。	死亡-21	
22	B-07001363	男性	26	26歳	75 mg	ホスホマイシンナトリウム	突然死 心肺停止	死亡 死亡	前日、夜、38℃から39℃の発熱。寒気あり。軽度の咳あり。 受診当日午後、体温:39.8℃。インフルエンザ迅速検査を行うも陰性。ホスホマイシンナトリウム点滴し、リン酸オセルタミビル処方。夕食摂取後、本剤服用し、服用30分後、自室に戻る。 服用1時間後、意識消失しているのを発見され、救急搬送。搬入時には心肺停止、瞳孔散大していた。心肺蘇生を行うも、人工呼吸器下でも血中酸素濃度の上昇がみられず、高度のアンドーシスあり。一方、気管内チューブからはピンク色の泡沫状液が排出され、徐々に血性に近い色になっていった。カテコラミン等を中心に治療を進めたが全く反応せず、死亡確認。 死後の頭部CT検査では特に異常を認めず。胸部CT検査では両肺のdiffuseな間質性様の陰影と心血管内の多量のエアアを認めた。エアアは蘇生時の静脈内挿入のためと思われる。	死亡-22	
23	B-03011468	男性	31	31歳	150mg	ロキソプロフェンナトリウム 塩化リゾチーム ソファルコン スルピリン	心肺停止	死亡	インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用(併用薬は左記のとおり)。深夜、救急での病院搬入時には、すでに心肺停止状態。心肺蘇生等を行うが、死亡。剖検の結果、肺裂面では斑状の出血巣が散在し、食道下部粘膜等に出血傾向が確認。主治医によると、リン酸オセルタミビル服用前日からウイルス性肺炎に罹患していたものと考えられるとのこと。	死亡-23	
24	B-05023475	女性	32	32歳	150mg	バンデテン リスベリドン マレイン酸レボメプロマジン 酸化マグネシウム オランザピン カルバマゼピン 塩酸ピペリデン アセトアミノフェン	急性心不全	死亡	統合失調症、肥満、卵巣のう腫で治療中。体重100kg以上。発熱、倦怠感があり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル150 mg/日を服用(併用薬は左記のとおり)。その日の深夜にアセトアミノフェンを服用。次の日の朝、心肺停止で死亡。	死亡-24	
25	B-07000062	男性	32	32歳	75 mg	麻黄湯	突然死 心肺停止	死亡 死亡	38℃の発熱あり。インフルエンザAの診断のため、リン酸オセルタミビルを処方。その場で服用。9時間後、2回目服用。普通に話し、普通に歩いて寝た。深夜、家族が様子を見に行ったら呼吸をしていないのに気付く。救急車を呼んだ。救急隊が到着した時には心肺停止状態。心肺蘇生を行うも改善せず、死亡が確認された。 死体解剖の結果、脳、胸部、腹部臓器に心肺停止をきたすような明らかな所見なし。	死亡-25	

死亡症例の概要(年齢順)

(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年	年齢	1日用量	併用薬	死因	死亡	経過の概要	前回の死亡No.	備考
26	B02-12178	男性	34	34歳	75mg	鎮咳配合剤 アモキシシリン	突然死	死亡	インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル75mgを夕食後服用し(併用薬は左記のとおり)、そのまま就寝するが、次の日の朝、死亡(推定死亡時刻は深夜0時頃)。	死亡-26	
27	B02-9932	男性	34	34歳	150mg	ロキソプロフェナトリウム アスピリン・ヒドロタルサイト セフジニル 総合感冒剤 健胃・消化剤 ホスホマイシンカルシウム ブドウ糖 ビタミン製剤	心肺停止	死亡	十二指腸潰瘍の既往歴あり。インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方、正午頃服用して就寝(併用薬は左記のとおり)。その2時間後、呼吸していないことに気づき、心肺蘇生を行いながら救急で搬送。搬送から約4時間後、うっ血性心不全で死亡。剖検の結果、両肺のうっ血水腫が著明であり、直接の死因になったと考えられるとのこと。	死亡-27	
28	B-06025416	女性	36	36歳	150 mg	維持液(3) ブドウ糖 メシル酸ナファモスタット ファモチジン 膵臓性消化酵素配合剤(1) 臭化水素酸デキストロトルファン	突然死 不整脈	死亡 死亡	帰宅途中に倒れて、救急搬送され観察入院。SpO2 87%、心拍数127、血糖215、不整脈なし、肺炎なし。翌日、発熱(37.7℃)、貧血、血糖192、腹部軽度圧痛、不整脈なし。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを2回服用。2回目の服用から約12時間後に呼吸停止状態で発見され、その後死亡確認。	死亡-28	
29	B-05019414	男性	38	38歳	150 mg	ヒトインスリン(遺伝子組換え) ロキソプロフェナトリウム ロキソプロフェナトリウム	突然死 心肺停止	死亡 死亡	糖尿病の既往あり。糖尿病性昏睡のため入院。インスリンと補液で全身状態改善。入院から3日後、インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始。翌朝、解熱し、血糖もかなり改善。夕食後、突然心肺停止となり、死亡。	死亡-29	
30	B-05023600	女性	38	38歳	75mg	非ピリジン系感冒剤 セフジニル	死亡	死亡	急性気管支炎、慢性肺炎、アルコール性肺炎、慢性肝炎、アルコール性肝炎、光線過敏性反応、クッシング症候群、副腎新生物の既往歴あり。発熱、感冒症状があり、インフルエンザと診断され、アルコール飲酒後にリン酸オセルタミビル75mgを1回のみ服用(併用薬は左記のとおり)。その次の日の朝、布団の上でうつぶせになって死亡していた。検死の結果、死体背部、腹部に点状出血斑(紫斑)があり、病死とされた。	死亡-30	
31	B-07000269	男性	39	39歳	150 mg	スルピリン 619	突然死 心停止	死亡 死亡	受診時37.5℃、B型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル処方。帰宅後本剤150mg服用し、就寝。翌朝、仰臥位、心肺停止状態で発見され死亡診断。剖検結果より、推定死亡時刻は就寝3時間後。主要所見としては、拡張し重い心(448g、炎症なし)、肺水腫(肺炎なし)、尿トライエージ検査陰性、血中トロポニン検査陰性。拡張型心筋症による急性左心機能不全と診断。	死亡-31	
32	B-07001284	男性	39	39歳	150mg		意識変容状態 てんかん重積 状態	死亡 死亡	インフルエンザ陰性であったが、リン酸オセルタミビル服用開始。服用4日目、具合が悪く、病院へかろうとして車を運転し、その途中で交通事故となる。救急車が到着した時にけいれんを認めた。搬送時もインフルエンザ陰性であった。 [異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例 No.288に同じ]	死亡-32	

死亡症例の概要(年齢順)

(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	生年	一日用量	併用薬	副作用	死亡原因	死亡経過	前回の検査結果	備考
33	B-05024747	男性	40	40歳	75 mg	非ピリジン系感冒剤(4) イブプロフェン レバミピド 乳酸リンゲル液(ブドウ糖加) 維持液(3)	多臓器不全 発疹 急性腎不全	死亡 未回復 未回復	発熱あり、受診。下痢、発疹の症状なし。40℃の高熱と脱水状態でフラフラしていた。 受診時、意識障害、痙攣、異常言動・行動、胸痛は訴えなかった。 インフルエンザ診断キットでは陰性だったがインフルエンザが流行していたこと及び関節痛、倦怠感及び寒気の症状からインフルエンザと診断した。 インフルエンザ確定診断ではウイルス検出されなかった。 点滴処置を行い、内服用処方。点滴中に解熱、脱水状態改善のため、リン酸オセルタミビル等投与。点滴中、発疹などの異常は見られなかった。 高熱と脱水状態のため入院を勧めたが、入院を拒否し、その後帰宅。 服用2日目、下痢あり。多臓器不全発現。顔面、体幹に黒色の皮疹出現し、医療機関受診。採血上、尿素窒素、クレアチニン値が上昇し、入院となる。腎は両側とも水腎症なし。乏～無尿疑われ、尿道バルーン挿入等を開始。血圧60台へ低下し、呼吸促進となった。 その後、呼吸停止。気管内挿管、強心剤、心マッサージ等蘇生試みるも心拍戻らず、死亡確認。剖検が実施された。	死亡-33	2008/4/1以降追加報告
34	B-07006772	女性	40	40歳	150 mg	ロキソプロフェンナトリウム	痙攣	死亡	風邪気味にて受診。インフルエンザと言われ、リン酸オセルタミビル処方。2日間服用。 服用3日目、朝、急に激しい頭痛あり。その後、就寝したが、その後本人は立って、全身の筋肉痛を訴えた。頭痛、体熱感あり、歩行困難。痛み強く、疎通性も悪いため救急要請。来院時、体温は37℃(昨夜38℃)、頭痛(4～5日前から)、爪の付け根あたりにぶつけたような痛みあり。レベル低下あり。次第に意識障害がはつきりしてきて、完全に疎通性がなくなる。昼、薬物中毒による脳障害の疑いにて、入院。開眼するも、すぐ閉眼。顔色不良。体動、拒否反応強い。夕方、いびき様呼吸あり。夜、濃グリセリン投与。いびき様の呼吸あり。体交する下肢の硬直あり。口唇色不良あり。 翌朝、早朝から激しいてんかん様けいれん。日中、30数回のけいれん発作あり。夜に入っても発作続くが、次第に15分後とにあった発作なくなる。瞳孔散大、呼吸停止あり、その後、心停止。死亡確認。 [異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例 No.317 に同じ]	死亡-34 異常以外-295	
35	B-07000245	男性	45	45歳	150mg		自殺既遂	死亡	一年以上前、インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用。次の日、自殺。 [異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例 No.332 に同じ]	死亡-35 異常以外-309	
36	B-06004486	男性	49	49歳	150mg	非ピリジン系感冒剤 アスピリン ヒベンズ酸チベジジン リン酸ジメメルファン プラノプロフェン 塩酸セトラキサート	死亡	死亡	期外収縮及び心房細動の患者。発熱、咳、鼻症状、関節痛及び倦怠感があり、インフルエンザの疑いで、リン酸オセルタミビルを服用開始(併用薬は左記のとおり)。服用3日目の夜、家人に気づかれないまま車で外出。自宅より30km離れた海の岸壁で車が発見され、人が海に落ちた形跡あり。約2ヶ月後、海中より死亡した本人が発見された。 [異常な行動が記録されている事例 No.317 に同じ]	死亡-36 異常-283	
37	B-06010654	男性	50	50歳	150mg	アセトアミノフェン ベシリン酸アムロジピン オルメサルタン マドキシミル アトルバスタチンカルシウム水和物 グリメピリド ファモチジン	劇症肝炎	死亡	発熱、悪寒、関節痛があり、リン酸オセルタミビル150 mg/日を服用開始(併用薬は左記のとおり)。服用開始から4日後、インフルエンザ軽快・回復し、その翌日の朝に服用終了。服用終了2日後、全身倦怠感が認められ、服用終了8日後、急性肝炎と診断され、入院。入院後、劇症肝炎と診断され、人工透析を開始したが、呼吸状態が悪化して人工呼吸器管理となり、入院から20日後死亡。	死亡-37	

死亡症例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年	年齢	日用量	併用薬	副作用	死因	経過の概要	前回公報 2006年	備考
38	B-05025724	男性	51	51歳	75mg	アセトアミノフェン アミノ酸・糖・電解質(2-3)	精神症状 自殺既遂	不明 死亡	肺結核後遺症に伴う慢性呼吸不全に感冒を合併し入院。経過は良好であったが入院7日目に院内でA型インフルエンザに感染。18時頃、両下肢のしびれ感などの合併があり、将来の健康に関して全般的不安を訴えていた。19時頃に本剤服用開始(体温39.2℃ありアセトアミノフェンを本剤とともに服用)。22時の体温は37.3℃。翌朝5時に生存を確認。6時30分病床不在確認、7時39分飛び降りて死亡しているのが発見された。自室のノートに遺書有り。 [異常な行動が記録されている事例 No.319 に同じ]	死亡-38 異常-285	
39	B-05000142	男性	52	52歳	75 mg	塩酸チアラミド カルベジロール フレロキサシン キタサマイシン セラペプターゼ 塩酸トリメキノール ファモチジン プレドニゾン	死亡	死亡	痛風の既往歴あり。喘息、高血圧、気管支炎、冠動脈不全の治療中。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを処方(併用薬は左記のとおり)。当日の夜、リン酸オセルタミビル75mgを服用してから約1時間後、呼吸が苦しくなったため救急で搬送。救急車到着時、すでに心肺停止状態にあり、救急外来到着約1時間後、心肺停止で死亡。剖検の結果、気道発赤、心臓の冠動脈硬化症を確認。	死亡-39	
40	B01-4575	男性	54	54歳	75mg	アジスロマイシン水和物 塩酸ミノサイクリン	出血性十二指腸潰瘍 肝機能障害 下痢(症)	死亡	高血圧症の既往歴あり。慢性腎不全、糖尿病、糖尿病性網膜症、及び頸椎後縦靱帯骨化症で入院。透析を行うが、全身状態は極めて不良であった。入院から約6週間後、インフルエンザと診断。次の日の夕方、リン酸オセルタミビル75mgを1回のみ服用(併用薬は左記のとおり)。服用の数日後、下痢症状及び全身倦怠感が出現し、肝機能障害が出現。下血を繰り返す尿毒症症状が悪化。その3日後、出血性十二指腸潰瘍で死亡。	死亡-40	
41	B01-10716	男性	57	57歳	150mg	アセトアミノフェン スルピリン dl-マレイン酸クロルフェニラミン	急性心不全	死亡	午前中、インフルエンザ様症状が出ていたため、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方(併用薬は上記のとおり)。夕方、急性心不全が発現、救急で搬送されるが、死亡。なお、担当医によると、リン酸オセルタミビルを服用したか否かは不明。担当医の協力が得られず、その詳細は調査不能。	死亡-41	
42	B-05021363	女性	57	57歳	150mg	リセドロン酸ナトリウム水和物 酸化マグネシウム インドメタシン カルボシステイン 塩化リゾチーム 酪酸菌配合剤 塩酸メキシレチン 硝酸ミコナゾール 硫酸ゲンタマイシン	死亡	死亡	筋強直性ジストロフィーの患者。心室性不整脈、慢性気管支炎、心弁膜疾患、心不全、活動状態低下、骨粗鬆症の治療中。インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル75mgまたは150mg/日の服用開始(併用薬は左記のとおり)。翌日解熱し、インフルエンザは軽快したが、その次の日の朝、死亡を確認。担当医によると、筋強直性ジストロフィー及びインフルエンザでの死亡とされた。	死亡-42	

死亡症例の概要(年齢順)

(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	個別番号	性別	年齢	年齢	一日用量	併用薬	副作用	死因	経過の概要	前回の公表 No.	備考
43	B-07000104	男性	57	57歳	75 mg	アセトアミノフェン ベシル酸アムロジピン カンデサルタンシレキセチル メシル酸ドキサゾシン 球形吸着炭 炭酸水素ナトリウム アロプリノール ファモチジン 沈降炭酸カルシウム シロスタゾール タゾバクタムナトリウム・ピペラシナトリウム パニペナム・ベタミブロン ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	痙攣	死亡	発熱(39.4℃)、湿性咳嗽あり、インフルエンザA治療のため、リン酸オセルタミビル服用。5時間後の翌未明、けいれん発症。 [異常な行動が記録されている事例以外の精神神経症状事例 No.362 に同じ]	死亡-43 異常以外 -337	
44	B-07021969	男性	57	57歳	75 mg	アセトアミノフェン	突然死	死亡	午後、39℃台の発熱、咽頭痛が出現。夕方、受診。インフルエンザ抗原検査陰性であったが、検出率100%ではないので、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン処方。夜、本剤服用。服用8時間後(深夜)、トイレにて意識あるのを家人が確認。服用9時間後、死亡状態で発見。検死では髄液内に血液は混じっていない。 [剖検]未実施、実施予定なし。 [突然死に関する追加調査結果] ・心電図:なし ・循環器系の既往歴、家族歴:なし ・脳血管障害の既往歴、家族歴:なし ・呼吸器系の既往歴、家族歴:なし	死亡-44	
45	B-04027246	男性	58	58歳	150mg	総合感冒剤 セフジニル 葛根湯	中毒性表皮壊死融解症	死亡	良性前立腺肥大症の患者。頭痛、関節痛、全身倦怠、発熱及び咽頭痛があり、受診したところ、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方(併用薬は左記のとおり)。発熱、咽頭痛が続き、2日後の午後には咽頭痛が強くなった。頸部に紅斑が表れ、入院した。中毒性表皮壊死症が発現し、次の日以降、全身に紅斑が拡大し、びらん・水泡になったため、皮膚科で3日間ステロイドパルスを実施した。その2日後、ショック状態となり、呼吸不全となった。入院10日目、治療に反応せず死亡。	死亡-45	
46	B-07000271	男性	59	59歳	75 mg	トシル酸スルタミシリン ジアゼパム 塩酸プロメタジン シメチジン ウルソデスオキシコール酸 オランザピン 非ピリン系感冒剤(4)	心肺停止	死亡	咳嗽、39度以上の発熱あり。インフルエンザA陽性と診断。服用時間不明。布団上で伏臥位で心肺停止状態。死亡。	死亡-46	
47	B-07025351	男性	60	60歳代	75 mg		死亡	死亡	不明日、インフルエンザと診断され、夕方にリン酸オセルタミビルを1回服用。下痢などの胃腸障害を起こし、気分が悪くなる等症状が悪化し、その後意識不明となり、搬送先の病院で死亡。 [死因について] 治療において本剤の処方を受け、服用していることが考えられる。患者から採取した血液及び尿について、LC/MSによるオセルタミビル及び活性体の定性・定量を実施する。	死亡-47	

死亡症例の概要(年齢順)

(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	識別番号	性別	年齢	年齢	一日用量	併用薬	副作用	死因	経過	死亡までの経過	前回の死亡No.	備考
48	B01-529	男性	62	62歳	150mg	アトルバスタテンカルシウム水和物 セフトキシムプロキセチル ロキソプロフェンナトリウム 総合感冒剤 アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	多臓器不全	死亡	約35年前にクローン病の手術を施行。高脂血症の患者。インフルエンザの疑いで、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方(併用薬は左記のとおり)。その日の深夜、救急で搬送、病院に到着と同時に心肺停止。多臓器不全で死亡。	死亡-48		
49	B02-1096	男性	63	63歳	150mg	塩酸セフカペンピボキシル セラペプターゼ ロキソプロフェンナトリウム 塩酸セフォペラゾン	呼吸困難	死亡	インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始(併用薬は左記のとおり)。服用開始後、4日目の午後になっても解熱せず、塩酸セフォペラゾンを服用。次の日、解熱し、自覚症状(悪寒、関節痛)も改善。その次の日の朝、呼吸困難が発現し、救急車で心・呼吸が停止。病院にて蘇生したが、その日の午後、多臓器不全で死亡。	死亡-49		
50	B-04025726	男性	64	64歳	150 mg	クロルプロマジン・プロメタジン配合剤(2) プロベリシアジン フルニトラゼパム センノシド マレイン酸レボプロマジン プロベリシアジン 塩酸モサプラミン 塩酸ピペリデン 塩酸トリヘキシフェニジル ハロペリドール ゾテピン	心肺停止	死亡	B型肝炎の既往歴あり。統合失調症で入院治療中。第一度房室ブロックを合併。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始(併用薬は左記のとおり)。服用3日目の夕食後、本剤を服用してから呼吸状態が異常になり、続いて呼吸停止、心臓停止。約2時間後、心肺停止で死亡。	死亡-50		
51	B-06025523	女性	66	66歳	150 mg	アセトアミノフェン 塩酸セフカペンピボキシル 臭化水素酸デキストロメトランファン メシル酸ドキサゾシン カンデサルタンシレキセチル	劇症肝炎 アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加	死亡	インフルエンザ迅速テストにてA型陽性反応確認。インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用(5日間)。服用終了7日後、胃の周囲がもたれる。重い感じとの事で再入院。診察上、眼球結膜黄染。服用終了8日後、肝機能検査値高値のため、すぐ入院となる。服用開始から約1ヵ月後、死亡。	死亡-51		
52	B-04000136	男性	68	68歳	150mg	アセトアミノフェン 塩酸セフカペンピボキシル レバミピド	ショック	死亡	胃癌の既往歴があり、10年前に胃全摘出術及び脾摘出術を施行。インフルエンザが疑われ、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方(併用薬は左記のとおり)。次の日の朝、全身状態が悪化(血圧70、ショック状態)してICUに入室。入室3日目も改善傾向が見られず、その次の日、感染性ショック及び多臓器不全で死亡。剖検の結果、両側膈膜筋肉出血が確認。咽頭スワブ検体による溶連菌抗原検査結果は陽性であるが、皮膚所見に乏しく血液培養の結果は陰性。	死亡-52		
53	B-07000407	女性	68	68歳	150 mg	塩酸チクロピジン リセドロン酸ナトリウム水和物 メナテトレン タルチレリン水和物	心肺停止 急性呼吸不全	死亡	既往に腎臓小脳変性、心室性期外収縮、上室性期外収縮、中脳、橋の萎縮とラクナ梗塞あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。夕方、湿潤咳嗽、倦怠感、上肢振戦あり。夕食後、本剤2回目服用。服用4時間30分後、いびき様呼吸あり。本剤投与翌未明、湿性咳嗽あり、呂律困難あるもコミュニケーション良好。喀痰あるが特に状態の変化なし。その2時間後、心停止、呼吸停止。	死亡-53		

死亡症例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成21年3月31日まで)

No.	症例番号	性別	生年	年齢	一日用量	併用薬	副作用	死因	発症までの経過	前回公表 No.	備考
54	B-07000599	女性	68	68歳	75 mg	プレドニゾン 人免疫グロブリン	白血球数減少 肺炎	死亡 死亡	発熱が持続しており、インフルエンザA型と診断され、夕方からリン酸オセルタミビル服用開始。 服用2日目、朝から低酸素血症、低血圧が出現。CTにて右上葉以外に肺炎像、両側胸水貯留あり。抗生物質に変更し、シベレスタットナトリウム水和物投与開始。急激な白血球減少あり。βDグルカン陰性、尿中レジオネラ抗原も陰性。後日、血中アスペルギルス抗原陽性が判明。喀痰からMRSAが検出。 服用開始2日目、呼吸不全進行し、ショック状態となり気管内挿管、人工呼吸管理。ショックから離脱できず心マッサージなど必要となり、家族立会いのもとで蘇生中止し、死亡。	死亡-54	
55	B-05024749	男性	71	71歳	75mg	ベシル酸アムロジピン 硝酸イソソルビド シロスタゾール エバレスタット トリアゾラム	播種性血管内 凝固 多臓器不全 劇症肝炎	死亡	狭心症、高血圧、線内障、糖尿病、慢性気管支炎及び心房細動の患者。発熱があり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始(併用薬は左記のとおり)。服用2日目、呼吸困難のため、入院。食欲低下、下痢、腹水を認め、肝機能が悪化。さらに腎機能も悪化し、播種性血管内凝固による多臓器不全と考えられ、輸血等が開始された。腹膜透析を施行するが、入院5日目、呼吸停止、死亡。なお、本剤のリンパ球刺激試験(DLST)の結果は陽性であった。	死亡-55	
56	B-05001264	男性	72	72歳	75 mg	ジクロフェナクナトリウム ナフトビジル	突然死 心肺停止	死亡 死亡	破傷風(その後遺症による下肢変形、下肢麻痺)の既往歴あり。前立腺肥大症の患者。朝、発熱があり、ジクロフェナクナトリウム座剤を投与。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル75mgを昼すぎに服用(併用薬は左記のとおり)。その2時間半後、解熱したが、夕方、心肺停止状態で発見。回復せず、死亡。	死亡-56	
57	B01-2125	男性	73	73歳	150mg	クラリスロマイシン 塩酸アンプロキシオール 塩酸チアラミド トロキシビド ロサルタンカリウム フロセミド プレドニゾン 硝酸イソソルビド ツロブテロール ファモチジン プロピオン酸フルチカゾン テオフィリン	急性肝障害 急性腎不全	死亡	肺結核(左上葉切除)、虫垂炎及び気管支ぜん息の既往歴あり。喘息重症発作にて入院。低酸素血症による肝障害、高尿酸血症を併発。約3ヶ月後退院し、その4日後にインフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始(併用薬は左記のとおり)。服用終了後4日目に、肝機能異常、腎機能異常等が認められ、入院。その翌日、急性腎不全となり、血漿交換、透析を開始。リン酸オセルタミビルの服用終了から約2週間後、肝不全及び腎不全で死亡。	死亡-57	
58	B-04001536	男性	74	74歳	150mg	アルファカルシドール レボチロキシンナトリウム 酸化マグネシウム ダイオウエキス ポリカルボフィルカルシウム ラクタミン アルジオキサ ピオチアスターゼ2000配合剤 ファモチジン オクトチアミン・B2・B6・B12配合剤 電解質輸液 生理食塩液 ロキソプロフェンナトリウム、 テブレン	白血球減少症	死亡	統合失調症、慢性肺炎、慢性糸球体腎炎、糖尿病、胃炎及び甲状腺機能低下症のため、入院治療中。インフルエンザが疑われ、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用(併用薬は左記のとおり)。次の日の夜、状態急変。その翌日の朝、白血球減少症、肺炎等が確認され、その後、呼吸困難を発現。さらに次の日、重症肺炎で死亡。	死亡-58	